



## 第25回九州ミッドシニア選手権競技 第40回九州グランドシニア選手権競技

競技報告 (2018/ 10/ 3-4)

写真と記事 : M. Kikutake

Mシニア 3オーバー 147

### 67歳の山本宜正(周防灘)が初優勝

Gシニアは2オーバー 146

### 70歳、真鍋高光(大博多)が初優勝

第25回九州ミッド(M)シニア、第40回九州グランド(G)シニアの両選手権競技は10月3、4日の2日間、大分市の大分東急ゴルフクラブ(M 6488ヤード、G 6229ヤード、いずれもパー72)で行われ、Mシニアは67歳の山本宜正(周防灘)が通算3オーバー、147で初優勝した。

Gシニアは2年連続でプレーオフでの決着となり、70歳の真鍋高光(大博多)が通算2オーバー、146で並んだ75歳の瀧下幸治(ザ・マスターズ天草)を下して初優勝した。真鍋は2012年のミッドシニアでも優勝しており、シニア2冠。

(写真はMシニア優勝の山本宜正ⒺとGシニアの真鍋高光Ⓕ)



(C)GUK

### Mシニアの山本は逃げ切りV

初日の好天に対し、最終日は朝から雨となったが、本格的な降りとなる前に競技も無事に終了した。

今大会には、65歳以上のMシニアに各県地区予選を通過した選手ら67人(欠場3人)が出場。競技は初日、1オーバー、73の山本が単独首位。1打差で6人、さらに1打差の3オーバーに4人と混戦模様となった。

12オーバーの52位タイ、56人が決勝ラウンドへ進出、その最終日は、追う上位陣がスコアを伸ばせず、2バディー、4ボギーの74とまとめた山本が逃げ切った。この日のベストスコア71をマークした66歳の池尻良平(鹿北、66歳)が初日の25位タイから浮上。72で16位タイからランクを上げた佐藤憲一(久住高原、67歳)や、初日の2位タイを維持した松尾昇一(チェリー宇土、68歳)とともに2打差の2位タイに入った。前年優勝の比嘉賀信(美らオーチャード、66歳)は12オーバーの21位タイだった。



(C)GUK

## Gシニアの真鍋は5打差を逆転しての勝利、Mシニアと合わせ2冠

70歳以上のGシニアには83人(欠場7人)が出場。初日、5バーディー、3ボギーの2アンダー、70とただ1人のアンダーパーをマークして単独トップ断ったのが瀧下。これに九州のシニア3選手権を制した実績、日本シニア、ミッドシニアの優勝歴を持つ大川重信(小郡、73歳)が4打差の2位につけ、さらには真鍋と箱田欣也(JR内野、70歳)が5打差の3位タイという展開になった。

13オーバーの65位タイまでの69人が最終日に進出。2位の大川に4打差の発進だったが、安全圏ではなかった。1バーディー、5ボギーの76とスコアを乱した瀧下に対し、真鍋が2バーディー、1ボギーのベストスコアタイの71をマークして瀧下をとらえ、プレーオフにもつれ込んだ。

そのプレーオフは1ホール目、2パットのパーの真鍋に対し、瀧下はアプローチのバンカーショットを失敗し4オンでファーストパットも入らず、パーを維持できずに敗れ去った。

1打差の3位は4バーディー、3ボギーの71をマークした佐藤良晴(西戸崎シーサイド、70歳)。大川が出だしの1、2番で連続バーディーとしたものの、後半崩れて通算5オーバーの4位。前年優勝の中島好巳(チェリー鹿児島シーサイド、72歳)は通算11オーバーの12位タイだった。



(C)GUK

## 日本ミッドシニア(熊本空港CC)に21人

### 日本グランドシニア(玉名CC)に12人が出場権獲得

この試合の結果、11月1～2日、熊本空港カントリークラブで行われる第25回日本ミッドシニア選手権には10オーバー、14位タイまでの20人と、12オーバーの6人中、最終ラウンドのスコア比較で選ばれた1人の計21人(シードを含む)が出場権を獲得。また、第25回日本グランドシニア選手権(11月8～9日・熊本県、玉名カントリークラブ)には10オーバー、10位タイまでの11人と、11オーバー、12位タイの6人中、最終ラウンドスコア比較で選ばれた1人の計12人が出場権(中島好巳はシード)を得た。



## Gシニア初優勝の70歳、真鍋高光

### 白血病とプレーオフを克服しての勝利



(C)GUK

プレーオフで勝ったのは初めて。過去、2戦2敗と言い、「プレーオフに弱い、と言われていたが、これで何とか…」と表情を緩めた真鍋高光。3度目の正直でのVに率直に喜びを表した。

かつての大博多CCの仲間でもある第一人者の大川重信(小郡)と同組での最終組。勝手知ったる先輩。「大川さんが出だしてハーディー、バーディーと来たときはやられた、と思ったけど…」しかし、あきらめずに攻め、2バーディー、1ボギーの手堅いゴルフ。「ドライバーもパットも、悪いところはなかったし、緊張もなくラウンドできた」という真鍋だ。

前半8番(パー3)で乗せただけの下からの15<sup>1/2</sup>のパットをねじ込み、後半も14番(パー5)で4<sup>1/2</sup>を入れた。この後、16番(パー3)でグリーンエッジからのパターをショートしてボギーとしたが、5打差あった首位の瀧下幸治をとらえ、プレーオフに持ち込んだ。

そのプレーオフは1番(パー5)。フェアウエーをキープした真鍋に対し、瀧下は左ラフで、しかも前の立ち木が邪魔で、右

から狙った第2打をグリーン右手前のバンカーに入れた。真鍋は花道。バンカーからのアプローチ、瀧下はここで“ホームラン”。グリーン奥にはずし、4オン。パーパットを外したのを見た真鍋は、ピン下2を2パットで決め、勝利をつかんだ。

古希を過ぎ、体調の話になった時、実は、と言って話してくれたのが、2年前に患った白血病。6か月入院し、抗がん剤治療を続けた。現在では予後の定期的検診で様子を見るだけで、「もう大丈夫」。ただ、入院生活で、力は落ちた。そこで、ドライバーのシャフトを軽いものに替え、今年1月には、左手親指が痛んだことから、倶楽部の先輩の篠塚武久氏が提唱しているベースボールグリップに替えた。これが功を奏した。「飛距離がだいぶ戻ってきた」と言う。

これまで、シニア、ミッドシニアで日本選手権に出場し、上位にはいくものの、優勝はない。「今年は地元九州だし、狙いたい」と血色もよく話してくれた。

**プレーオフで敗れた瀧下幸治** 「諦めてはいん、食い下がらないと、と思ったけど、あんまりチャンスはなかった。けど、普段通りのゴルフでした。日本選手権は熊本だし、何とか…」

## モットーの“無理しないゴルフ” Mシニアのビッグタイトルをつかんだ山本宜正

1打差つけての最終日は雨の中。1番バーディーで幸しい出だしだったが、以後は3ボギーとスコアを落とし、前半でいったんは松尾昇一に並ばれた。しかし、折り返してからは11番ボギーのあとは16番バーディーとしてパープレー。「結局は無理しないゴルフ、攻めどころと、守るところのメリハリ付けたゴルフが良かった」という山本だった。

大分県中津市在住の自営。30過ぎてからのゴルフで、「会員権を買った時、そのゴルフ場にアマチュアでうまい人がいた。よし、自分も、と発奮した」という。その後、隣県とはいえ近くの周防灘CCに移った時、日本のアマ界でならした尾家清孝氏と出会った。これで、競技ゴルフに火が付いたという。

この試合前、「むちゃくちゃ調子が悪かった」。だから、「予選通ればいいかな、という思いだった」。それが、本番ではショットが真っ直ぐ飛び、「気持ち的に、これならいけそうだな、という感触になった」そうだ。

初日トップ。早速。尾家氏にメールで報告した。「頑張れ。スタート前にはトイレに入って瞑想しろ」と返ってきた。冷静になれ、ということか。終わってみれば、後続に2打差をつけての優勝。「結局は、欲を出さずにいったのが良かったのかな」と“無欲の勝利、を強調する。

仕事は引退し、今では年間100ラウンドはこなすという。クラブチャンピオンも2016年まで7回取っていると言う。九州アマ、九州シニアと出場はしてきたが、優勝経験はない。それが「僕には考えられないようなスコアで勝った」と。この勢いで日本選手権も突っ走りたい山本だ。

